

客員教授室

derivillage Blage
 derivillage ブラジ

[最近の藤崎](#)
[複雑性の自己生態学](#)
[過去の戯言集](#)
[スペキュレーションの哲学](#)
[掲示板\(金融哲学会\)](#)

[真鍋の金融ノート](#)
Link
[Elliott Charts](#)
[What's New](#)
[金融 What's New](#)
[商品 What's New](#)
[メールマガジン\(公告\)](#)

[デリバティーズ・セオリー・
ジャングル](#)
[金利デリバティーズ大全](#)
[大学院講義録](#)
[ピンポイント講義録](#)
[研究ノート](#)
[研究リンク集](#)
[メーリングリスト\(デリビレッジ2000\)](#)

[超越論的金融哲学論考](#)
[超越論的金融哲学論考](#)
[金融哲学の森](#)
[金融哲学者の書庫](#)
[金融哲学入門辞典](#)

実名でも匿名でかまいません。投稿エッセイ・論文を歓迎します。

第1回招聘教授…**黒崎宣博氏** (2002年6月20日)

[「1」投稿にあたって\(ここは読まないでください!\)](#)

[「2」超アナリストの超アナリスト論](#)

[「3」超アナリストのアナリスト論](#)

第2回招聘教授…**藤崎達哉氏** (2002年7月10日)

[「1」複雑性へ再生の条件](#)



「1」投稿にあたって

なぜ、正統派のインテリである金融学者藤崎達哉氏が私に投稿を依頼されたのか、その真意が未だにわからない。偶然にも私の「アナリスト論」なるユーモラスなエッセイを読まれたようだが、普通のインテリであれば私のホームページなど「とんでもサイト」の一つとして相手にしないものだ。間違って評価するということは、自らの権威に傷をつけることにつながるのであり、そんなリスクを取る人は少ない。しかし、リスクのプロ藤崎氏はリスクをテイクした。きっと、どこかにゲインを見ておられるのだろう。

さて、何を投稿しようか迷った。何でも良いと言われてさらに迷った。そして結局、「アナリスト論」と「超アナリスト論」の二つを投稿させていただくことにした。ユーモア・エッセイとして読まれるか、真面目な論考として読まれるかは読者の自由である。

世界とは複雑系である。とはいって、複雑系で勝つために複雑系を解く必要はない。相対的に優位であること。それだけで十分だ。チェスのチャンピオンとなるのに、チェスの必勝法を見つける必要はないのである。それでも必勝法にこだわる人こそ哲学者なのだろうか。

2002/6/16 黒崎宣博

PDF Editor

「2」超アナリスト論 ~ 黒崎宣博

1. 超アナリストとは何か

超アナリストには以下の二つの見方がある。

(1)スーパー・アナリスト

(2)メタ・アナリスト

超アナリストがスーパー・アナリストだとするならば、それは有名でなければならず、カリスマでもあるだろうし、収入は普通のアナリストの10倍は必要だろう。さらに、神話化された物語や伝説がいくつもなければいけない。上場企業をたった1日で倒産の危機から救ったとか、奇跡に近い人名救助プロジェクトを成功させただとか、無から無限大を作るような、魔術のように見える超人的で圧倒的な輝きが必要になつてくる。とても残念ではあるが、スーパー・アナリスト願望はあるものの、私は今のところスーパー・アナリストとは程遠い存在である。

メタ・アナリストを超アナリストと訳すのは一般的ではない。そもそも、超アナリストという言葉を使ったのは、私が最初なのであり、一般的であるわけがない。<meta-analysis>の専門家、それが超アナリストである。<meta-analysis>は、テクストの背後にあるすべてを分析する人だ。パラダイム分析とも言えるだろう。これは、構造主義の基本となる技法=ディコンストラクション(deconstruction=脱構築、解体構築、再創造、などと訳す。)とも共通している。

構造主義の隠れたヒーローと言えば、もちろんマンソンジュ氏だ。ご存知ない方がいるかもしれないで簡単に紹介しておこう。

…マンソンジュ氏(MENSONGE)：マルカム・ブラドベリの小説「My Strange Quest for MENSONGE -Structuralism's Hidden Hero」(1987)で紹介された人物。同書は邦題「超学者マンソンジュ氏」柴田元訳、平凡社(1991)。詳しくは同書を買って読んでいただきたいのだが、今では入手困難らしい。因みに、彼は「最後の学者」とも呼ばれる。…

もっとも、超アナリストから見れば超学者はかなり甘い。名前に哲学がついているというのが、そもそも甘い。アナリストはフィールドを選ばないし、哲学にもこだわらない。(超学者は超アナリストを甘いとう。それではフィールドが存在しないではないかと。

超アナリストはアイロニストである。しかし、日本ではアイロニストとだけ書くと誤解を招きやすい、ということを私は経験から学んでいる。そこで、リチャード・ローイティの話題作「偶然性・アイロニー・連帯」斎藤純一、山岡龍一、大川正彦訳、岩波書店(2000)の第4章(p.154)に書かれているアイロニストの三つの条件を引用しようかと思ったが、長いので序論から引用しておく。

「道徳的なディレンマを解決する演算式があると考える者は誰であれ、依然として心の中では神学者か形而上学者であるのだ。このような人は、人間の実存と意味を規定しつつ、さまざまな責任の階層関係を確立するような、時間と偶然を超えた何らかの秩序が存在する、信じているのである。そうした秩序が存在しないと信じるアイロニストたる知識人の数は、そのような秩序が存在するに違いないと信じる人びとよりも(幸運で、富裕で、教養のある民主的な社会においてさえ)はるかに少ない。知識人以外の人びとのほとんどは、いまだに宗教的信仰の、あるいは啓蒙の合理主義の一形態に、自らを委ねている。」(p.6)

何ということだろう。世界では未だに啓蒙からの啓蒙を必要とする人達が大多数だという。どうやら、アイロニストであるということは、超アナリストとなるための最低限の条件のようだ。

これらのことと常識として理解しながらも、超アナリストは一見欺瞞的とも見える課題を提示する。それは、政治学、経済学、心理学、さらには人類学、社会学の領域を横断した新しい社会科学の構築であったり、現代の社会的病理とされる、精神的抑圧、精神の人間的自然からの疎外といった問題であったりする。そんなことが不可能であり、無理であるということは、貴方自身が証明していることではないか、との批判を受けることも少なくない。

そうだろうか。あるはずの無い秩序を信じる人が大多数なのであれば、それは秩序が存在するということだ、と定義することにも可能である。であれば、そういう人達は、また別の秩序を信じ、その秩序に基づいて行動することだろう。真理とか秩序という言葉の替わりに、法則とか理論という言葉を置くと、より適當かもしれない。超アナリストは法則や理論を絶対視することはなくとも、その科学的妥当性を否定したりはない。右手に合理を左手に非合理を持つ者、それが超アナリストの姿である。

微妙に危険な言い回しだが、超アナリストは神でも悪魔でもない。詐欺師でも道化師でもない。大多数の人にとって、それが奇異に映るとしても、超アナリストにとっては、それが自然なのだ。自らの生のために環境に対して正当な影響力を行使することを妨げる権利など誰も持たないのだ。

2. 超アナリストの戦略

成功を収める前に成功物語を書くというのは相當に滑稽だ。さらに、戦う前に本当の戦略を詳細に語るような監督や選手などどこにもいない。しかし、多少の成功を収めた段階で、自らの戦略や勝負哲学を書いてしまう人達は少なくないようだが、そういう人達は例外なく勝てなくなり、戦いの場から去って行く。超アナリストが、このような失敗を犯すはずなどない。超アナリストは一つのことを一つの目的のためだけに行うような効率の悪いことはしない。さらには、すべての行動について、どちらに転んでも満足できるような「後悔の無い行動設計」を徹底している。

そもそも、超アナリストは「成功」についても相対化している。発狂した多数の現代思想の巨人、中人、小人、たちと超アナリストの違いは、脱構築を行いながらも、たえず現実的、常識的世界観のうえに立ち、一般的な世界、世俗から決して離れないことだ。故に、世俗から逃げた超人となることもなければ、単なる夢想化になることもない。それどころか、超アナリストは世俗的な成功も、ある程度の権威も、必要であると承知しているし、求めてすらいる。

さて、そんな訳で、ここで私の戦略を書くわけにはいかない。そんなことをしては、より優秀な人に簡単に真似をされてしまい、私は不利になる。競争力を、アドバンテージを維持すること。これは企業経営ではなく、個人にとっての基本である。自らの競争力を明確化し、それを、いつ、どのような形で、いくらで換金するのかを計画するのは当然だろう。もっとも、回収のコストを考慮して回収しないことも多いだろうが。

しかし、戦略と題した以上、戦略について少しは書かなければ、これは裏切りになってしまう。そこで、経済的に成功を収めるための一つの戦略を書いてみよう。現代の経済はクルーグマンの指摘する通り「有名人経済」である。有名になることは大金を掴むための有力な方策の一つである。もちろん、ホームページで有名になろうなどというのは、誤まっている。ホームページは補助的な手段なのであり、マス・メディアへの露出がなければ有名になどなれない。

次に、何年でいくら稼ぐかを明確にすることだ。いつまでも稼ぐなど至難なのだから、基本はサンセット主義で設計することである。40年前後働くサラリーマンですら定年はある。しかし、40年は長すぎる。長くても10年以内にするべきだ。まあ、この辺は目標を段階的に区分けし、PERTを書くなどして、ラフカットを作つてからタスクを設計し、スケジューリングへと落とし込めばいいだけだ。計画よりも実行の方が困難だらうが、当然モチベーションも考慮してデザインしているだらうから問題は生じまい。

有名になったら、どう稼ぐか。これは簡単である。テレビ出演。出版物へのコメント。講演。著書の出版。飲食店の出店。キャラクター商品の販売。何だって換金できる。さらには、顧問料や印税、その他の権利収入がも期待できるだろ。書くことが得意でない、などと弱気になる必要はまったくない。自分が書けなくても、ゴーストライターなどいくらでもいる。自分でやるよりも、誰かにやってもらうこと。これは経営の出発点である。あなたが有能である必要はない。有能な人を使えば良いのだ。有名人になれば、あなたはもはや消費される商品であることを自覚し、商品価値を維持し、向上させるという単純な判断を繰り返せば良いだけだ。それが出来ない場合でも、外出時には変装して外に出る、家の中に閉じこもる、海外に居を移す、など方法はいくらもある。心配はいらない。

さらに、既存のメディアに巢食うくパブリシティ>で小遣いを稼ぐこともできる。これは自らの宣伝にもなるので一石二鳥である。ある企業の製品を褒めるとお礼が来るだろ。けなせば、お詫びがくるだろし、重役からクラブに呼ばれ接待を受けることになるかもしれない。お願ひだから書かないでください、と何かを包んでくる場合もある。領収書を発行する必要はないだろ。これは、あなたが人気者として有名になった場合だけでなく、悪役として有名になった場合にも使える。これは、あの人が乗ってる車よ。絶対買わないなどとなれば、自動車メーカーは、お願ひだから貴方が乗っている車について書かないで欲しいと申し入れてくるはずだ。貴方には悪意はない。ただ、事実を語っているだけなのだから、そういう反応があれば、さらに書けば良い。つまり、有名になるということは、市場に対して影響力を持つということだ。有名人は価値の源泉であり、金の成る木そのものなのである。

そんな事は解っている。問題はどうやって有名になるかだ。という声が聞こえてきた。確かに、優れたスポーツ選手かタレントになる以外の手段というのは相当に難しいかもしれない。しかし、大丈夫だ。貴方が有名になる必要はない。あなたが有名人をプロデュースすれば良いではないか。チームを組むのも良いだろ。現にチェスの世界でも世界チャンピオンクラスになれば、フィジカル、メンタルのトレーナー、コーチ、日常の練習相手、さらには料理人や広報担当までいる。日本でも有名な評論家などは法人を作り組織的に運営されているものだ。学会にも共同研究などはあるようだが、より徹底した方が金を生むには都

合が良いだろう。5人の学者がそれぞれ頑張るよりは、一人の名前を担いで徹底的に宣伝した方が遙かに良い。もっとも、超アナリストは有名になりたいとは思っていない。既に十分な富を得ているため、金銭的な欲望が湧かないのだ。まあ、こう言っても信用しない方もいるだろう。だが、これは欺瞞ではない。冗談だ。

3. 超アナリストの技法

戦略も明らかにしない者が技法を明らかにするだろうか。それに、技法についての本など巷に溢れている。いまさら何か書くことがあるだろうか。重要なことは、技法の優劣ではない。状況や問題に応じて、用いる技法を正しく選択することが最も重要なのだ。カウンセラーは状況に応じて技法を選択する。政治家も政策に合わせて理論を選択する。教師も目的に応じて解法を選択する。これらは座学で出来ることではない。練習と実践の繰り返しだけが技法を磨くのである。多くの技法を習得するよりも、いくつかの技法を磨くことの方が有効な場合も多い。しかし、より多くの技法を知り、理解し、利用して、さらに新たな技法を生み出すことは知の醍醐味である。これは実利を取るか楽しみを取るかにも似ている。実利を取るならば、当然ながらいくつかの技法に満足し、それを磨くべきだ。

さて、ここまで述べたことは一般的な技法であって、超アナリストの技法ではない。超アナリストの目標を明示していない以上、技法を書いても意味がない。もっとも、賢明な読者であれば、ここまでふざけた無意味のような文章の中からでも私の真意を読みとることだろうが。イタロ・カルヴィーノは、速さ、軽さ、正確さ、の三つが21世紀のキーワードだと述べた。これは決して、より速く、より軽く、より正確に、ということではない。適当な速さと、軽さと、正確さが重要なのだ。そして、普通の人間にとっては、何が適當かを知る方法は実験を繰り返すことしかない。

超アナリストが供給するもの。それは朽ちた正義(ほぼ常に朽ちているものだが)の鎖を斬ち切る力であり、歪んだ経済(ほぼ常に歪んでいるものだが)から身を守る力である。今のところ供給できていないかもしれないが、そのようなものを供給したいと考えている。いま、旧来の生産様式が限界に達しているとマーヴィン・ハリスは言う。ここで言う生産様式とは産業構造という狭い意味ではなく、政治や社会、文化等のシステム全体を指している。これは即ち、新しい生産様式が必要とされている、ということに他ならない。この時期は変化が起りやすく、かつ、変化が受け入れられやすい時期であり、開放的な時期である。換言すれば、私達の前にチャンスが多数転がっているということだ。もっとも、このチャンスを取りに行くか、見逃すかは個人の自由である。リスクはあるだろう。しかし、リスクをおかさないことがいかに破滅的なことであるかは、失われた10年を見れば明らかである。強いものが勝つのではない。勝った者が強いと言われるのだ。そして、戦わない者が勝者となるゲームはどこにも無い。(了)

「3」アナリスト論 黒崎宣博

今、時代の花形はアナリストである。彼らは深い知識と高い技術があるふりをして(いや、あるのか)高額な報酬と優雅な生活を手にする。では、一体アナリストとは何なのか。どうすればアナリストになることができるのか。簡単な調査結果を整理しておくこととしよう。

1. アナリストの種類

アーリストにもいろいろある。どれだけの種類のアーリストがあるか調査した。以下は、yahooで検索した「ページ検索」のヒット数順である。(2001/10/1調べ)

- 1位 アナリスト(74,200)
2位 証券アナリスト(9,610)
3位 システムアナリスト(6,830)
4位 テクニカルアナリスト(1,150)
5位 金融アナリスト(1,100)
6位 カラーアナリスト(936)
7位 経済アナリスト(874)
8位 軍事アナリスト(637)
9位 マーケットアナリスト(327)